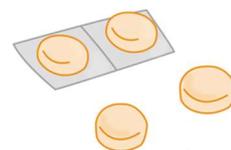


Ⅱ 薬による治療



リウマチの薬は個々の症状に合わせて処方されます。したがって、他の患者さんに効いた薬が必ずしもあなたに効くとは限りません。また、薬の種類によっては効果が現れるのが遅いものもあります。副作用への不安の為に、またはなかなか良くならないからと中止してしまう方がいますが、**自己判断せず必ず医師・看護師・薬剤師にご相談ください**。副作用のような症状で心配な場合には電話での相談も受け付けています。

1. 抗リウマチ薬

抗リウマチ薬は、関節リウマチの原因である免疫の異常に対して働き、病気の進行を抑えます。**効果が現れるまでに1ヵ月から3ヵ月程度かかります**。効果が不十分な場合には複数の抗リウマチ薬を併用したり、他の薬に変更したりする場合があります。

メトトレキサートが最も広く使われています。

2. 生物学的製剤

生物学的製剤とは、関節リウマチの治療に使われるようになった新しい薬で、点滴や皮下注射の薬があります。生物学的製剤は、関節リウマチの炎症を引き起こす物質の働きを抑えることで、関節が壊れるのを防ぎます。効果が比較的早く現れますが、悪性腫瘍や感染症に対する注意が必要です。経口の抗リウマチ薬よりも高価なので、経済的な負担が大きくなります。

3. JAK（ジャック）阻害薬

関節リウマチの原因の一つに、関節の滑膜における「炎症性サイトカイン」という物質が過剰に産生されることがあると言われています。JAK 阻害薬は、そのサイトカインの過剰な産生を抑えることにより、炎症や関節の痛み、腫れを抑え新たに発生する関節破壊を予防する内服薬です。一方、感染症や悪性腫瘍などの重い副作用が報告されています。高価な薬剤のため経済的な負担が大きくなります。

4. ステロイド

炎症を抑える作用が強く、関節の痛みや腫れを和らげる働きがあります。急にステロイドを中止すると具合が悪くなりますので、**医師の指示の通りに内服**することが大切です。長期間多くのステロイドを使用すると、骨粗鬆症などを引き起こすため必要時に最小限の使用となります。抗リウマチ薬の効果が現れると徐々に減量し、中止する場合があります。

5. 消炎鎮痛薬

関節の痛みを和らげる働きがあります。速効性はありますが、関節リウマチの**関節破壊を抑える効果はありません**。胃潰瘍、腎障害などを引き起こす可能性があるため使用中は注意が必要です。

上記の薬以外にも、関節にヒアルロン酸の注射や、骨粗鬆症に対するお薬、胃の粘膜を保護するお薬が使用されることもあります。まずはご自分がどのようなお薬を処方されているのか、よく確認しましょう。薬局で渡されるお薬手帳も活用しましょう。

妊娠、出産を希望される患者様へ

妊娠や出産に関しては内服薬などについて主治医との相談が大切です。薬剤によっては妊娠及び授乳中でも使用できるものもありますので必ず主治医に相談しましょう。

不安なことや心配なことがあれば、主治医、看護師にお声がけください。パンフレットなどのご用意もあります。

*各内服薬の詳しいパンフレットあります。

*薬剤の価格表など資料もありますのでお声がけください。

